

清国廣東上 第十八卷

大東院
西心

二二二

二二二

三毛

西來宗譜
會慶
喜月
屋浮



一二三四五六七八九十百千万 廣東東日 月 本 日 家

省城 廣東話音

Chi (Chi)
Ho
San
Shi
Ng
Lak
Tsi
Poc
Kau
Dau
Tah
Tse
Man (Cang)
Fim (Nan)
Lo
Lai
i
Sue
Fon
Ma
Kih

客家話音

yet
Ngi
Spm
Si
Ng
Luk or Lyuk
Dai
Pat
Kiu
Ship
Pak
Lam
Niam
Ngim
Wuk
Lok
Lui
Ngit
Hyet
Pim
Muk
Ka

北寧音

○廣東話之客家話

廣東話
客家話

省城北寧距離一千四百九十里

廣東話

客家話

省

府

州

縣

州

廣東語は支那文化の音をよく保存し
残るものあり。

概とタプとラをわがも鼠の面白し、

メとレとの區別(暗カク)

ホ=Nam

ホ三=Sam

日かき七三郎をサムローニサブローと云ふ

ハカレあり。

南方ハ Nam-Po

三波ハ Sam-Bo

と云ふことあり。

北原を長く引く音カ

廣東にて息を入聲と云

南北員凡と代表するもの也

カキ
カキ

○唐

芙蓉寺善提相製塔記佛感元年 蒲富

環中東澤愍字在三年 環山

東澤御前巖愍字在三年 全

大智禪師神元弘二年 長孫受封曲江

南海廣利王唐開元中 南海

中書令張九齡唐開元中 曲江

受封張九齡神唐開元中 全上

白雲禪師唐開元中 陽山

寶金山千巖表唐開元中 高要

七星巖表唐開元中 番禺

出孝寺文惠陀羅尼幢唐開元中 東昌

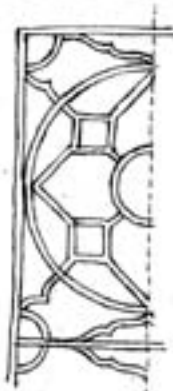
樞室二大字唐開元中

○五代

南漢

拓跋堅記 建天寧三年十月
資陽度印地瑪遜石塔記 建天寧年 東莞
雲門山徑聖大師碑 建天寧七年 興隆
光孝寺送千仙室塔記 建天寧十年 番禺

2



全成候堂
1/4



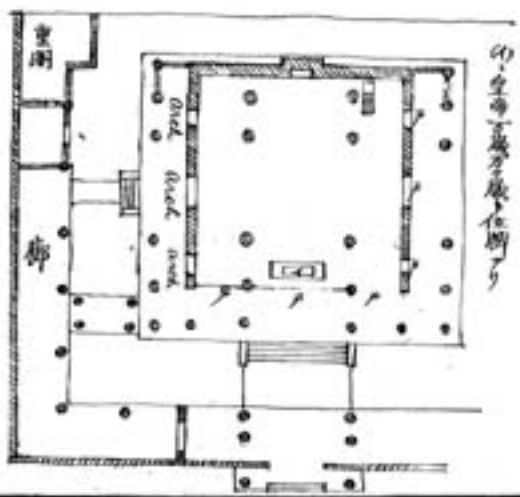
○寶院聚金堂

1



○縁師清真寺

印、空海三藏菩薩、在願了



校舎をアリアのハル及類々の業師又
中央棟丸

大清康熙四十五年歲次丙戌二月拾玖日重尾

△

○城南清、奥寺
ブラ大佛前者均上ノ中央ニ本堂
アリ三方ニ迴廊アリ前面ニ門アリ
ミツケニ佛設クテモノ放アリ
カ今活動ニ回教寺ハ云々あり。

窓



○ 廣東の三清真寺ハ

濠洲寺

城南寺

懷聖寺

三ナリ

○ 樓聖光塔寺

△ 光塔

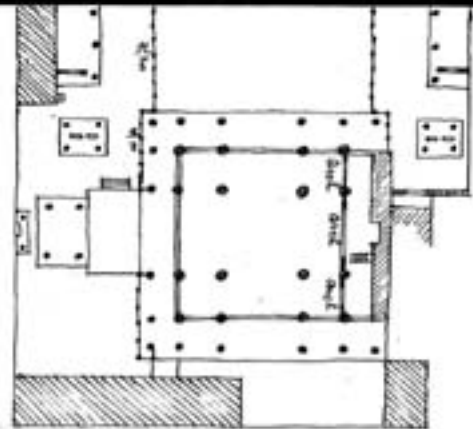
塔高五尺二寸四分、高十六尺、上層ノ金銅ノ
面南北ノ口ありしと、變りたり、金煉瓦造

煉瓦ノ大、二層アリ、小ナルモ

上段 七寸七分
厚 一寸六分
幅 三寸七分

所々小窓アリ、蓋シ中心ノ軒柱ヲ盤旋
トナリ、上層ノ口アリ、上層ノ細高キ塔ノ上ノ
上ノ塔ノ頂ノ金銅ノ像ノ金銅アリ
下層ノ像ノ動きたりと云ふ

12



△本堂

7

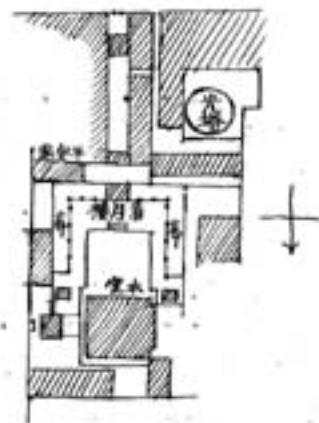
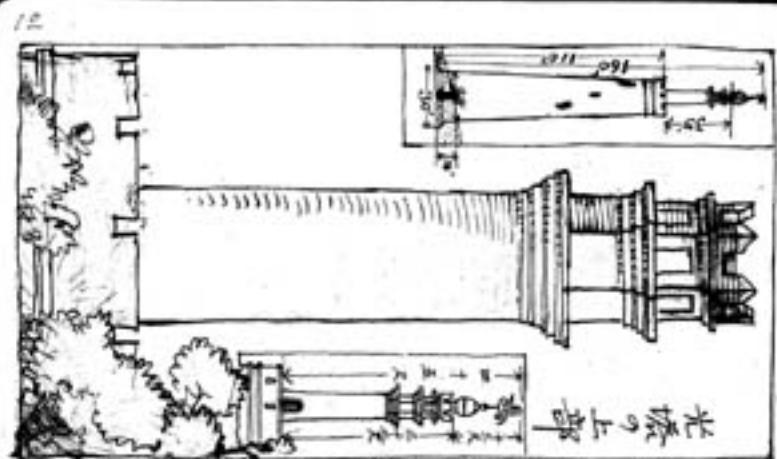
堂



堂ノ形一定十二、軸厚二、虹吸十二

↑ 堂ノ上段 高天寸位

堂ノ一段位 高七寸





廣東

越のしよ草 抗世思を
 今ほさむる 廣東の
 萬全の柳 珠の河
 えれたつ山は 白雲の
 わくまを野のそのゆま
 積たつ積年 光る手
 華燦まをま光臨は
 度の道跡の 懐望手
 文妙觀や 五仙觀
 機音山は 五層樓
 華の村て 海の堆
 河の南よ 咲き初矢
 後お目の木 花の色
 いやう受全よ 外つ國の
 風は靡り 雨もも程ま

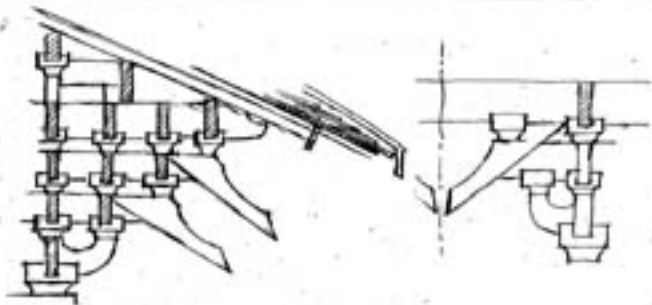
紅梅





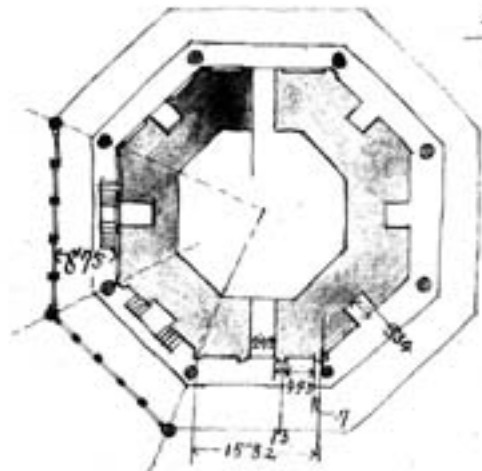
① 大徳寺 睡仙像

26



光孝寺

17



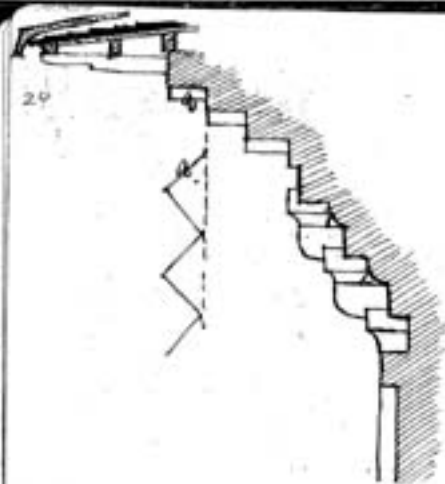
○浄慧寺、六椽を
 華殿、高三十七丈



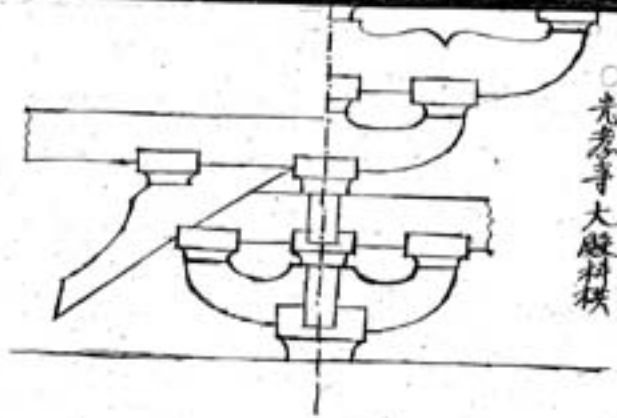
△大殿の後、八角七重の小塔あり。
 孝安、四年、上邊、内子大理石の山塔と
 及西方塔を藏す。
 △六祖殿の所、菩提樹あり
 拓本、由來、詳あり。
 △咸亨、五年の
 六祖大鑿、禪師を祀
 あり、玉座、麟のまじり。

沼草

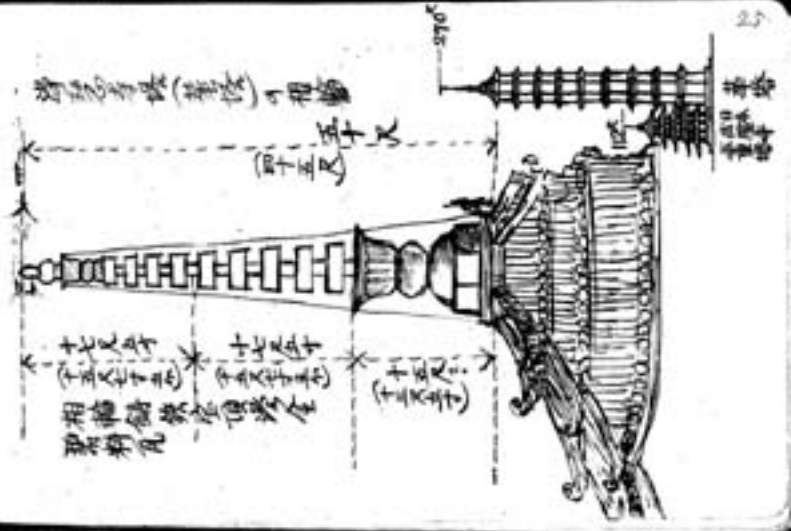
梁大同三年沙門曇祿創建空出巖寺
 宋初燬於火
 元祐元年再建千佛寺塔再建之
 熙寧六年燬塔頂地空屋之
 同治辛酉より大修塔
 光緒元年工畢
 唐玉勳舍利塔記云
 宋端拱中修塔之役淨慈寺上云之塔火
 燬元祐元年再建
 門之蘇東坡書六塔之扁あり



光塔每級左ノ如キ軒ノ子法ニ反
 復す



○ 光孝寺大懸材



光孝寺塔

塔身 (塔刹) 相輪

五十二尺
四十五尺

十七尺半
五十五寸五分

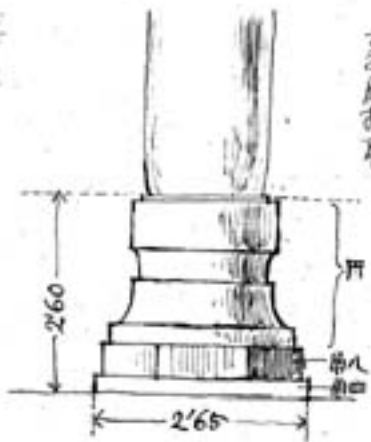
十七尺半
五十五寸五分

相輪 塔身 塔基 塔刹

十五尺
(五寸)



塔

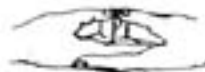


六面殿打序

彌勒

教迪

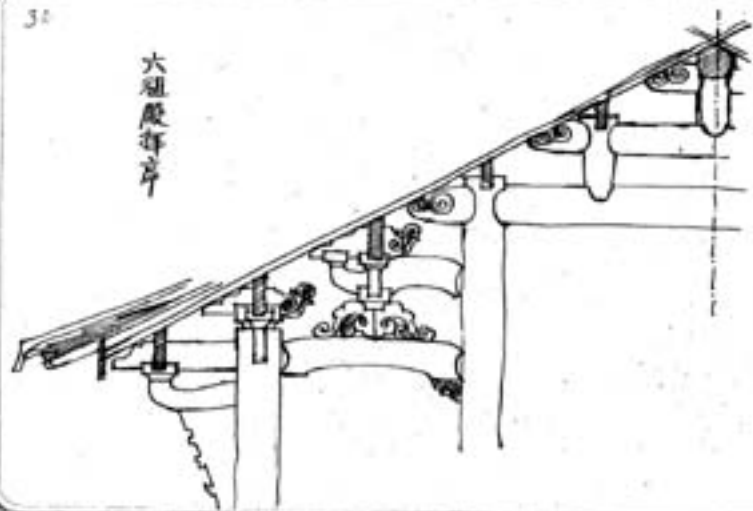
深陀



大腹中央三身仏 腕結名阿羅漢其天
 右左側壁 法身十八羅漢 于四菩薩

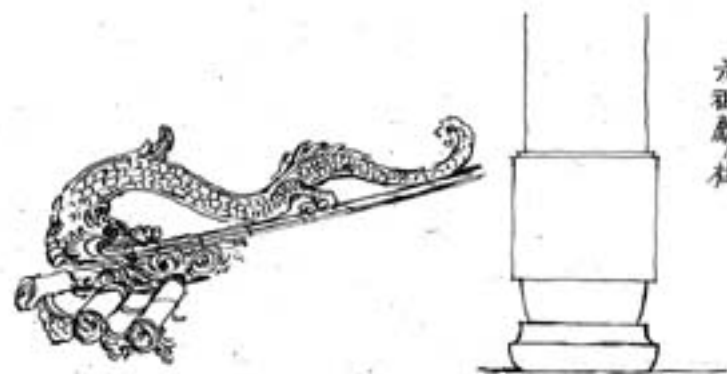
30

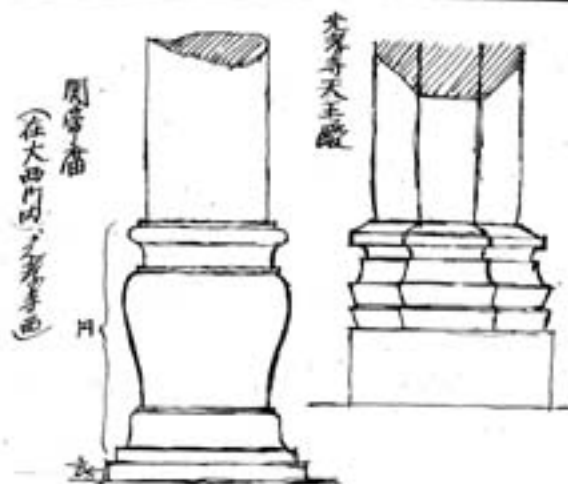
六祖殿軒序



20

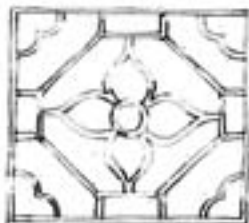
六祖殿柱





八角七級小塔子銘
 浮國七級始叔距善提壇南五
 十步下經六祖善薩頂發○○
 句所表定甲子住持慈信○○
 西域佛祖頂髮塔樣合土免○
 越二年成功撤去故而鼎立○
 信已不及見矣掌事正○○○
 故基壇瓦仍建浮國七級于祖
 殿前善提樹之西省表定四年
 丁卯八月十七日姑誌于石似
 俟來者警諸歲月云爾
 当代住持點翁一唯

○樓聖寺



木堂附厨舎

△同治十年重修(詳記見八卷)
 回教寺一名(查檢令、毛海) (六卷五上)
 塚脚寺
 南勝寺
 香港寺
 南城寺
 摩訶寺
 東吉寺

△看月樓一級

智貞觀元年庚次丁亥寺被燬

懷聖光塔寺

密航寺四年歲次乙亥仲冬重建

△本堂ノ棟札

大明成化三年歲次丁亥秋九月二十日
戊午重建

大清康熙三十四年歲次乙亥臘月十七日
巳巳再重建

コレヨリ以前ノ沿革ハ
至正癸未、焼ケ至正十年ニ重建セシム
但テ其時最ハ災ニ罹リタル形跡ナレ、
コレヨリ以前ノ沿革ハ不詳

碓白盛り (樓聖寺にて)



珠江



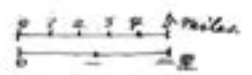
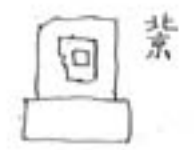
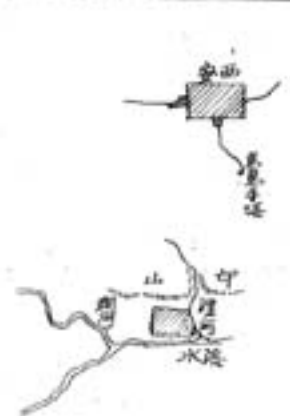
上り下り行かぬ船はぞうけんり
 むらさき河を珠と云ふらん
 紅雲

○観音山

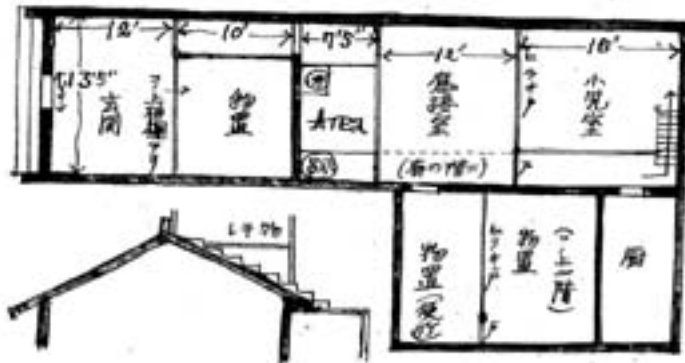
城ノ北隅ニアリ高ニ百尺ノ丘ノ頂ニ立ツ
 眺望佳シドモ建第目ハキモナシ
 右手ノ小丘ハ鐵王其堂ナリト稱ス

○五層樓

城壁ノ一部北端ニアリ五層ノ高樓ナリ
 建第見ルベキモナシ



42

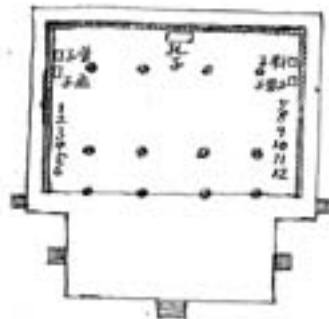


廣東の住家(文芸堂伊藤兄弟美濃居)

41

44

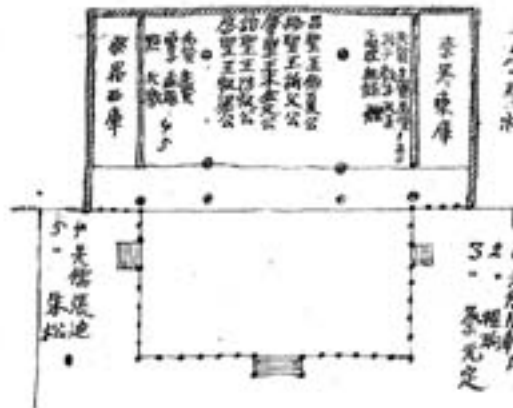
- 1 前子封 7 間不覆
- 2 前子子 8 間不覆
- 3 前子水 7 間不覆
- 4 前子錫 10 間不覆
- 5 前子水 11 間不覆
- 6 前子水 12 間不覆



大威殿

水學宮

△ 水學宮



3.2 天標明輪成
奉祀元定

△ 天標明輪成
奉祀元定



永線不禮府州廣

如自合律甚通凡股
敢示先日至開有後
再之謄不理開血碑
連後示敬體人氣亭

嚴勿俾文噴常理係
行再知堂洋屏宜奉
懲觀趨王跳亭商聖
創抗向富唱上仰像

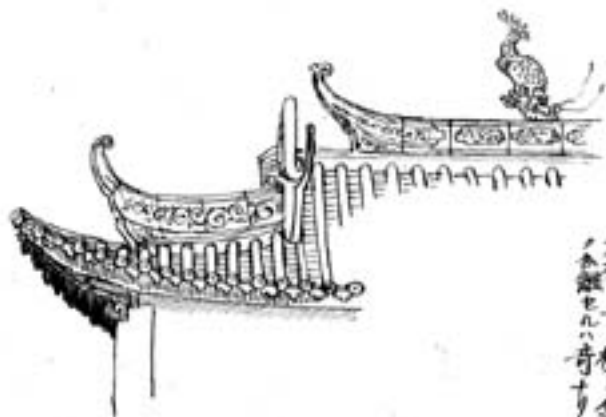
○府學揭示

音々聞く女性履の島の高れりてよ
男のふは目見つぬ河原の上
紅雲

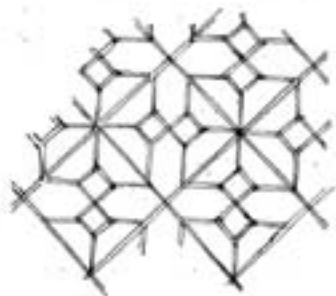


○及野原、野原寺
 在三区口、野原寺
 ○茶屋、在大北門外二里
 四教民ノ禮堂、スハハノ禮アリ

○南海縣學



大棟ト下リ棟ト全
 ノハ懸セルハ奇ナリ

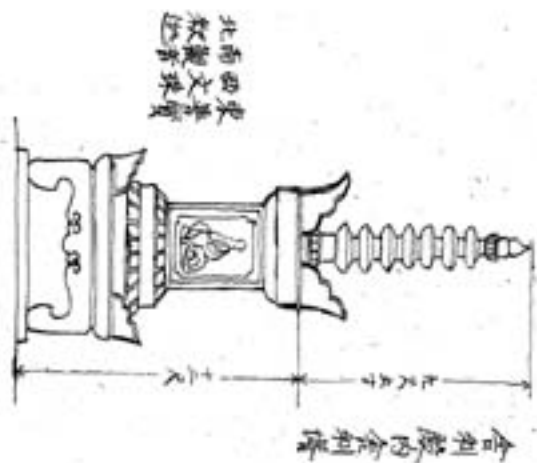


○海陸手



○海陸手

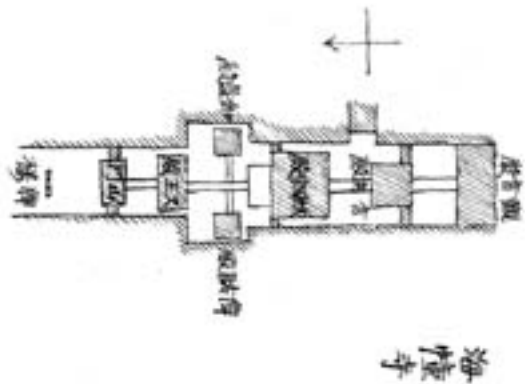
清和天皇ノ宸殿ノ飾ナリ。
 門前ノ大理石ノ新敗ニ奉テ、雲南ノ大理石
 ト云フ清和ノ御代ナリト云フ

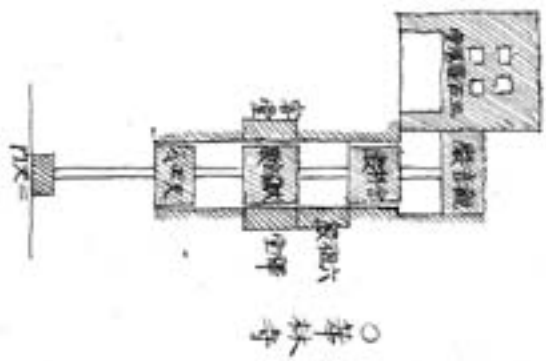


○華林寺
 山門
 三摩初地
 百奥叢林

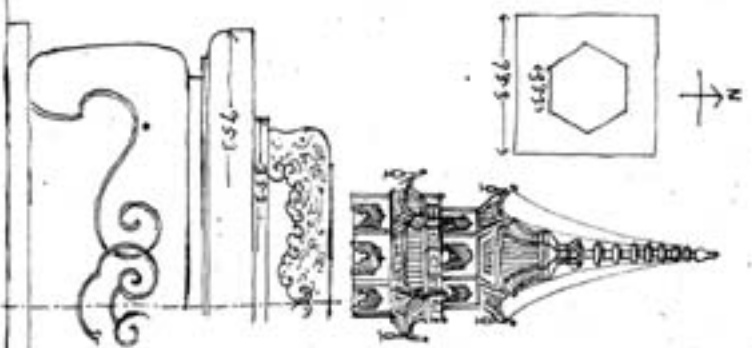
偏
 西 東 左 右

寺の附近(回廊通り)は西末初地と云ふ
 スクシチと云ふ言多 梵梵者(借字)と
 云ふ





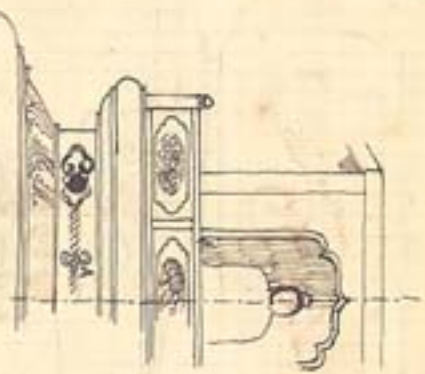
○ 葦林寺



舍利殿内
六角七層塔、上卷九卷重葺



五百羅漢堂
 子名亦一口他

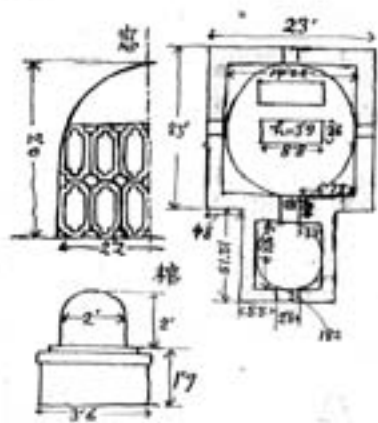


七重塔下部

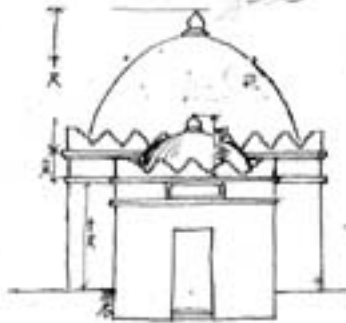
Decorative Mark



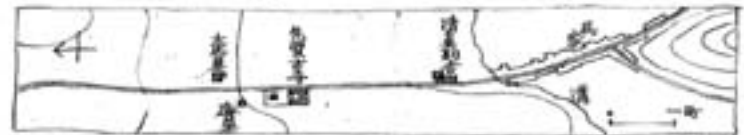
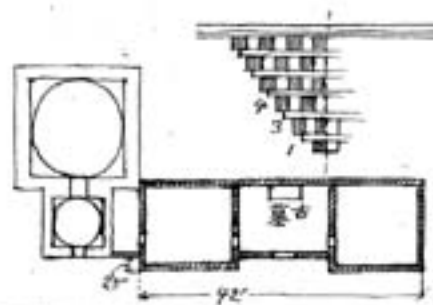
64



قبة ليلالك



pendentive

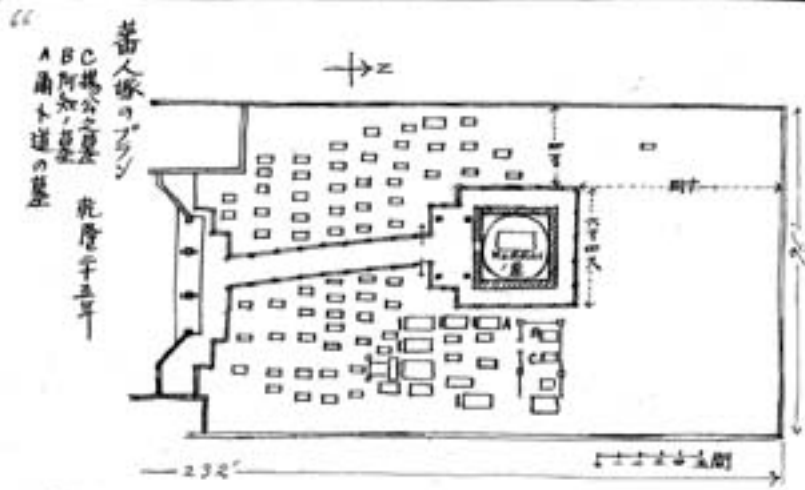


◎ 回教墳墓

甲墳墓

清真別舎ニ屬ス
別舎ノ由來探求ニアリ

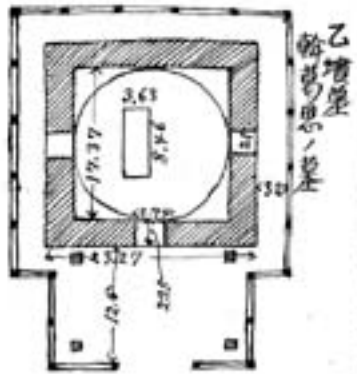
63



67

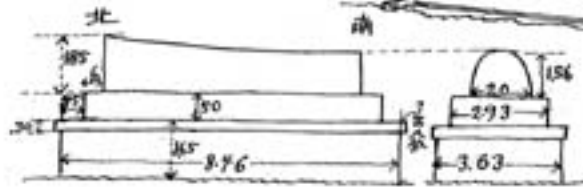
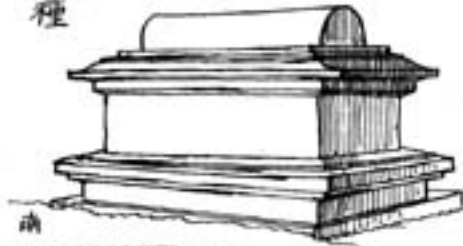
Tomb of Wakkas.
 (Ramaa ibn Wakkas)
 روضه ابو وقاص
 墓古賢先真清

コノ塚ハ清真先賢古墓寺
 一層ノスチノ入口ノ門上ニ在リ
 額アリ



才五種

Tomb of Wakkyō



才三種

才一種

菅人塚、墓のいり



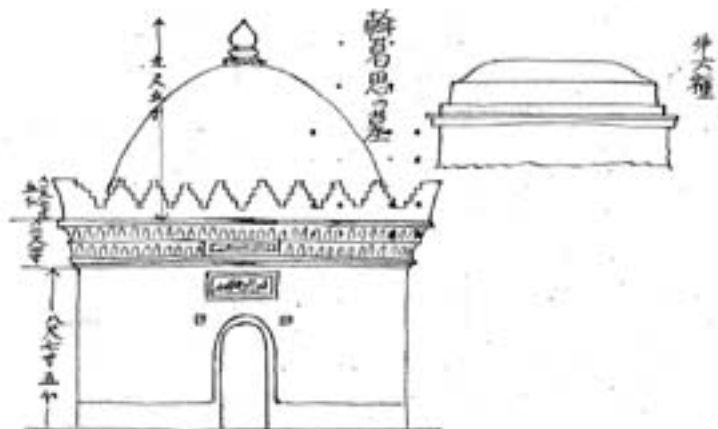
才二種



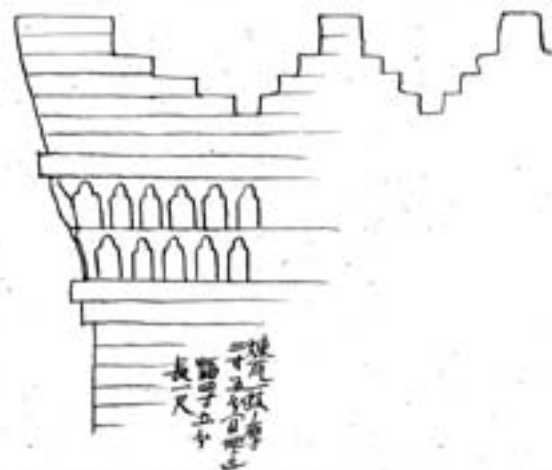
才四種

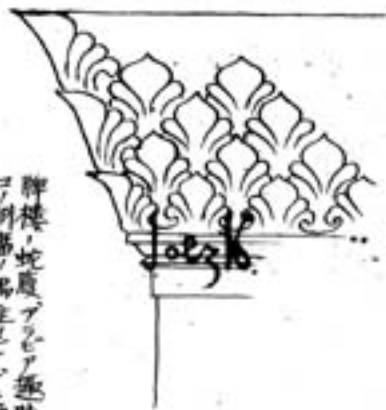


78



79

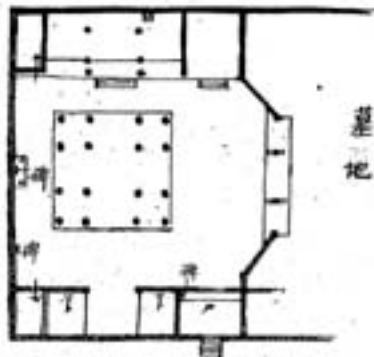




牌樓、蛇腹アヒアヒ趣味ナリ
 コノ例席ノ隅柱止ナドニ當テ用
 セラレ、例アリ

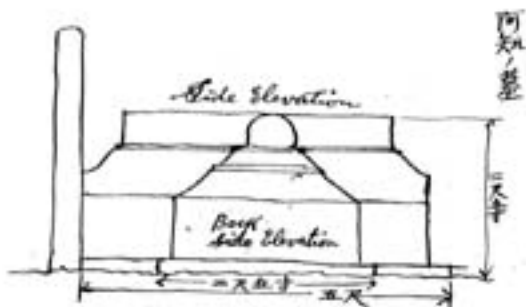
重修先賢先賢爾德之墓寺記
 廣州北郭三里許曰桂華之園天方
 先賢爾德之墓在焉云々
 先賢爾德ハ吾人等十九ベシ所ノ明帝時
 始メ来ルト説ナリ(拓本ニ就テ見ルベシ)

先賢古墓寺



墓地





先賢古墓
西域滿克人
北門外清真古墓
光緒十六年七月十四日

ولا يزالنا في كرمنا على كرمنا

Cosmicer

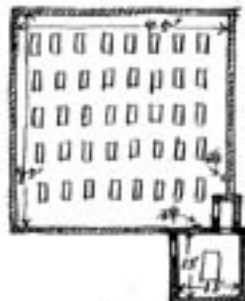
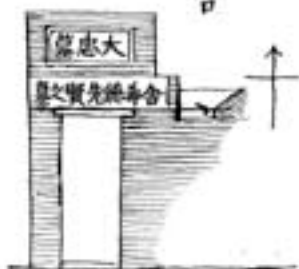
先賢古墓

يا موعنا بولنا فتح لنا ابوابنا

Arch. to

門我們開了
至清表門

墓之入口



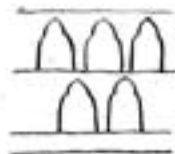
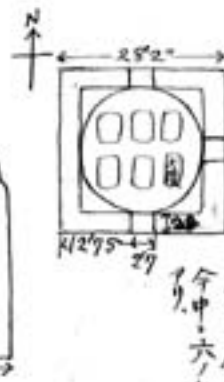
別ニ墓
之、持ス
レ強カ自今
シテ余和格
トナリテ
ナリ

丁墳

會布總之墓
コノ人蘇哈白ト共ニ来リテ
庫投セラルル、今同壁ノ中ニ四十ノ墓アリ

丙墳

先賢ノ墓ノ北ノ偏ニ存四ナリトモ
別ノ古墳アリ今トシム然レテ
先賢ノ墓ニ似似
今中ニ六ノ土銀致
アリ



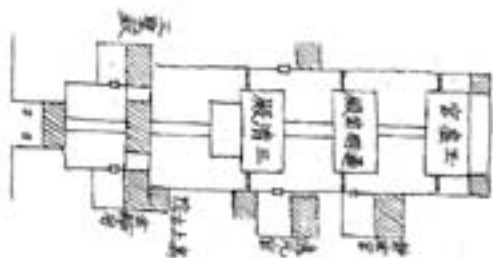
○玄妙觀

即チ上ノ天受觀ナリ
 蘇東彼ニ圧ヒト云フ
 マニ唐鐘ト宋鐘トウ宛見セリ
 其日本鐘ニ似似六只日本鐘ノ
 女ノ乳ナキハ一奇ナリ
 北唐中清未ク確カナル唐鐘ヲ
 見ス比較研究ニ送タルヲ得サレモ
 日本鐘ハ南清ノ鐘ヨリ出タル形
 ナキ如シ
 コノ唐鐘ノト何モナク廣東新誌
 羊城古鈔芳古朝要、府志等ニテ
 己ノ説セリ

通明空殿内宋鐘

鐘ノ日

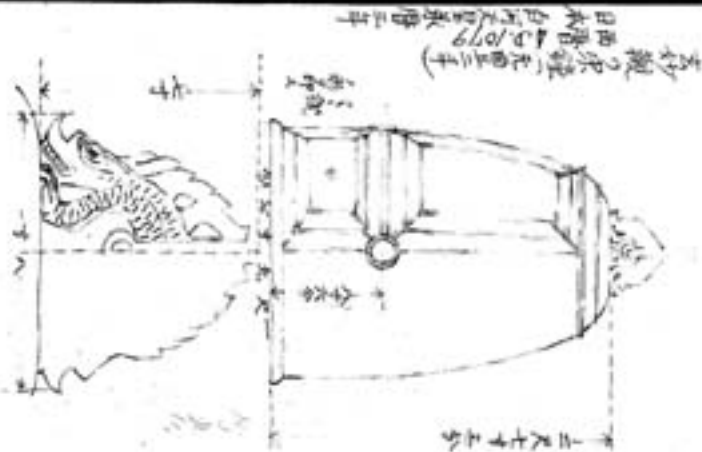
聖帝殿内供養元豐二年己未歲
 二月初六日謹題
 匠人張同

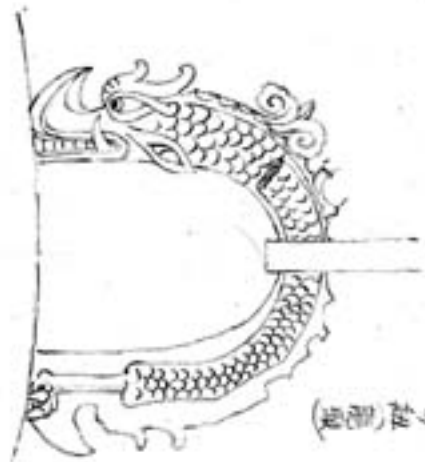


正徳六年、重修時

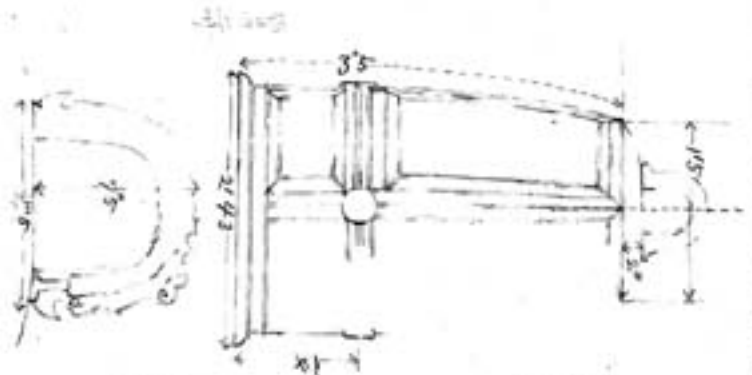


玉座宮内 / 微力持下鐘ノ
 鏡云ク
 金鏡振響響邪魔
 黄鏡持輝誅業鏡
 白尾後隨祛怪魅
 黄幡前引斬妖麼
 才子揚大漕奉





虎壁の柱(龍壁)



文妙殿(唐堂(天柱三層))
 三層殿内
 西暦 1908
 日本 龍壁(虎壁) 虎壁



大雄宝殿



觀音殿

○永勝寺

ちくは山寺は河のぬれり草
 流れて来るは黄金の舟なり
 石舟なり

珠江





○大廟峽
峽山古廟



北江

長閑きや流苗は峽より傳ひつゝ
紅雲

17 (清盛英徳園と往來する客船)



北江の鴉飼船

盲仔峡

黄泉ツ国
早送り
鴉飼船
紅雲

Kaido Kyōgōkan
 ○曲江縣 知名の田趾
 張九齡墓 餘北千五里羅源村
 張九齡祠 餘城內
 Chang Kao King Shi
 四賢祠 同上(今無し)
 大鑿金寺 同上(今無し)
 南岳寺 餘南六十里
 Nam Yue Shi
 南岳寺 餘南六十里
 老運寺 餘西
 Kuan Yuen Shi
 延祥寺 餘城內
 Yen Shyang Shi
 中興別墅 餘北御子園世顯墓(今不詳)
 Chung Hing Bie Shyue
 陳侯安御墓 餘西北(不詳)
 Chen Hou An Shi
 參政秋臺 餘東北觀石之北(不詳)
 Sam Ching Shi
 虞尚船 餘北七里
 Yu Shang Shi
 Yu Sun Shi



モートンボートの
 祭動機屋
 と損じ、機用
 の御堂を来り、
 の苦心快地
 外境より力に

大正元年所見



幾千年山と水との戦ひは
 流す血し不は深碧石より

紅葉

○英徳 しんじゆん
 東に南江ノ左岸ニ八角七重塔あり、
 九輪火火ノ形式如と全く廣東ノ華塔
 ニ同シ



烽火臺

城南教皇右岸ノ摩崖ニ向テ有リ、廟祠
 あり、傍ニ刻シテ

紫一絲瑠

と云々北ニ題名セリ山若石多シ河津南山
 ノ刻石あり

城南刻石ノ向ニ聖王古寺あり
 又六角三重塔あり、文章ニ述ルル未
 だ其ノ何ツ目的ヲモ評セズ



宝殿、屋根ノ輪廓ヲ考テ、此ハソノ任容的
 として仏像居し、仏像表裏ありと見ユ
 尚して佛塔ニ似テ、又寺觀ニ關係カ
 く孤立セリと考テ如シ

○河原

対又世々、フシ内紀傳ヤ由原トシテ



美し氣ハリ聖王

河頭の西二十清里子觀音巖
 奇巧なる觀音と云う、奇巧なる橋
 あり、
 此より北石炭岩の奇、怪なるもの
 相連して送地、
 江は諸所灘あり、
 然れども甚れ難
 し。



分日 自 五十五里 (陸)
 止八里 (水)

廿一日 自大朝 三十三哩半 (水)



廿三日 自河吹 二十五哩 (水)
廿四日 自河吹 十哩 (水)



廿五日 自河吹 十一哩 (水) (三哩)
廿六日 自河吹 六哩 (水)
廿七日 自河吹 八哩 (水)

烽火臺及文筆

各所に見ゆ。往々三基并立。大なるは四
 五尺高。六尺。相距り十五六尺。低きもの
 殿豊し。年中長髪賊の乱る際。設けられしもの
 あり。また。十里墩と稱す。頂は旗竿なり。
 丈筆も諸所にあり。皆茨楯のまうと大
 同。一七小貝あり。遺蹟の重要あり。この
 跡。さうも。楊岡と塔と。連鎖とあり。点々
 在り。價值を認めしを得ず。

長江堤より南望(北江岸上の地景)



水寒を長江の
 ●中より身顔
 びしてス。タと立
 ちたる。土の巨
 巖。あたりと
 覗んで身推へ
 なるその相於
 北江第一の大立
 物の即ちあれ

馬場防虎の塔(長崎)城の北時造り云々



北江(産)益敷水(益敷)の河津渡



賑やまの餅よつとい来る雑貨の救

紅梅の

群青の湖と緑青の松
偉大なる
造化の空室



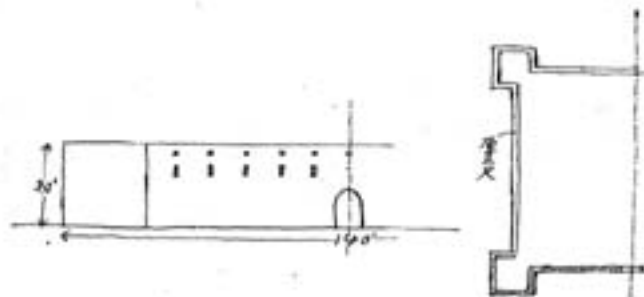
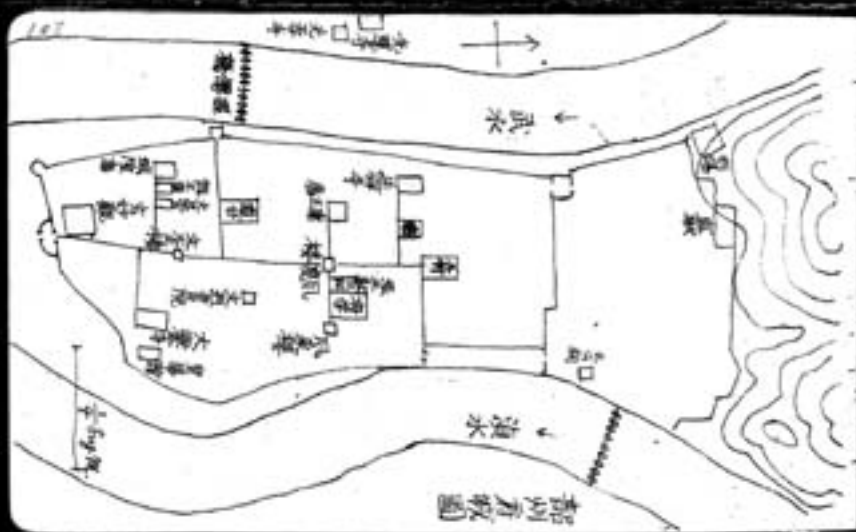
馬垣附近

北江



敵死して今は淋しき趣の空

紅雲



△馬項の城砦

○曲江縣

△紫雲會館(百鳥宮)

十の年一と建築あり

△鳳度橋

三層閣、下十字宮、上は蓮
二層、右名臣野靴の額あり、蓋し
張九齡の徳と建築する者、建築あり

△元宋橋

三層閣、下十字宮、十字道
拱造形式を、鳳度橋より

△頌九鼓洞

淳熙十二年二月乙酉の九鼓の像あり
吳道子筆の撰寫ありと云ふ

△楚南會館(禹王宮)

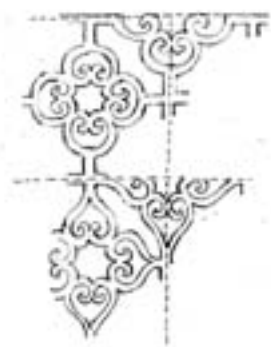
△天后宮

△三元宮

△廣州會館

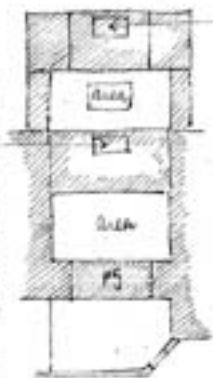
△大傳府

○鳳采樓の欄



遠凝度風

南



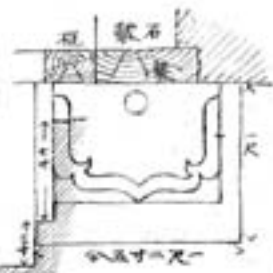
唐五相府九輪殿土殿坐北向南之位

張門堂上始高曹祖考公位
張家親之神位
(建九輪殿先代之位)

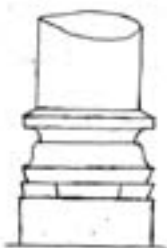
自古千兩天第一入

香耳唐室無雙士

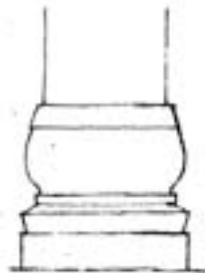
門の輪より



のら堅

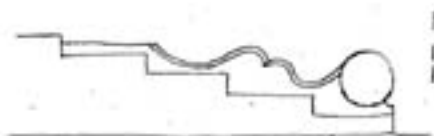


祠堂表。文徳元帥
公 裏下 横南一人
の扁額を掲ぐ

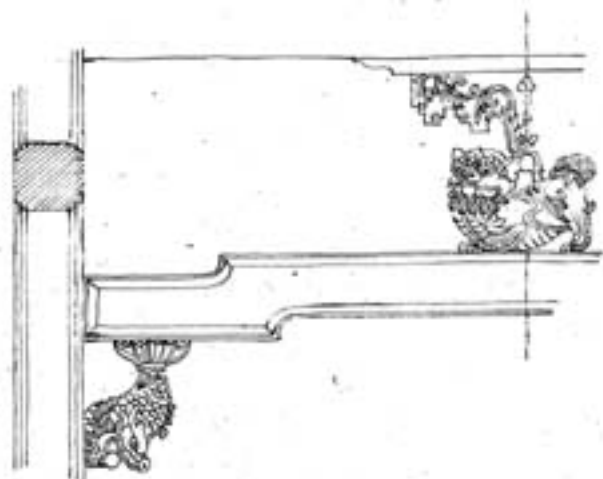


○張九齡祠

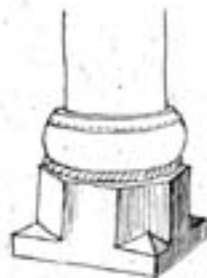
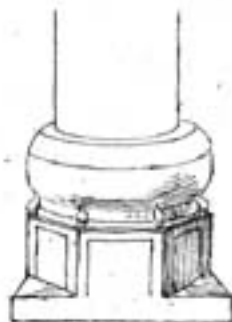
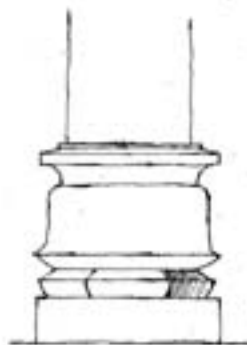
○萬年寺
 乾隆庚辰年五月辰日
 ○大印書院
 ○文淵書院
 黃燾撰 文淵書院



門・階段



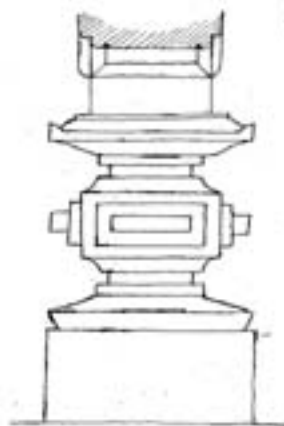
△張九齡祠門 石柱石梁の構造
 (扉は風度遊園にて見よ)

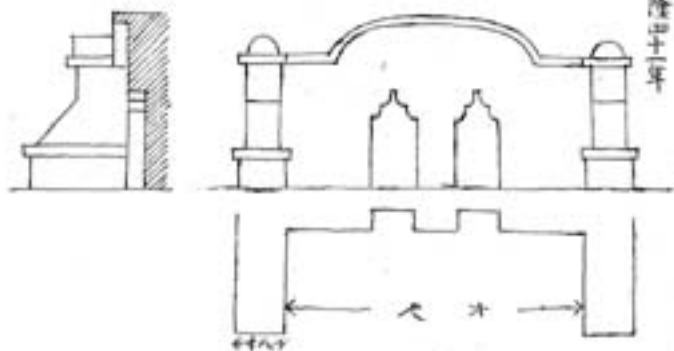


○玄妙觀

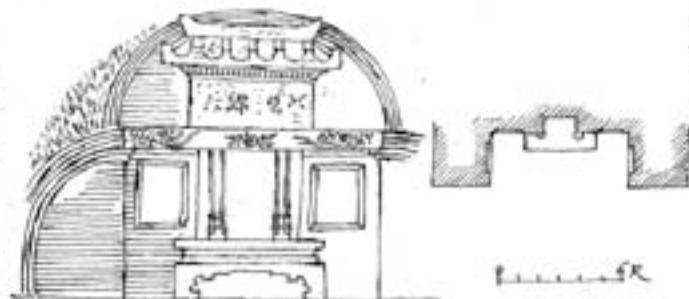
最大ノ建築ナリ

石ノ深キソキチ石佛、フシム花紋、絶テ
 張文獻公詞ノ手法ト大同小異ナリ、蓋
 シ此地方佛殿ノ様式也



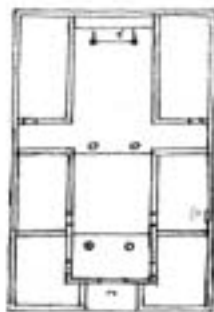


乾隆四十年



○獅子岡の墳墓
雍正年間

圖・室祠

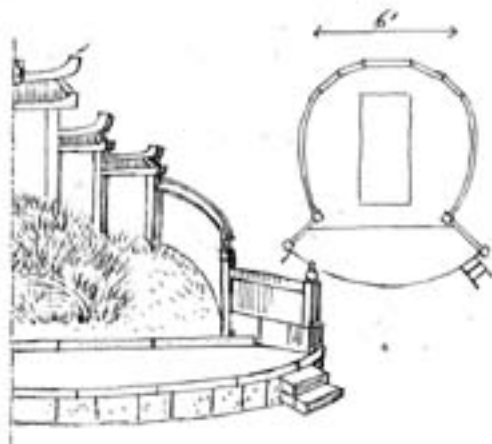


○ 儀文獻公墳墓
 置原村ヨカリ
 祠ノ碑ヲ曰ク
 唐宰相張文獻公墳墓置原在由江縣
 地名置原堂大山中雖有祠堂一間並
 無守墳人ノ云々
 嘉靖三十二年……

① 儀文獻公墳墓ノアリ
 小丘ノ半腹ニ墳あり松樹ニ株アリ之ヲ標
 ス小丘ハ松ノ田健狀ニあり天然ノ陵ノ形
 ニ似テリ

② 儀文獻公墳墓ノアリ
 儀文獻公墳墓ノアリ

③ 儀文獻公墳墓ノアリ
 儀文獻公墳墓ノアリ

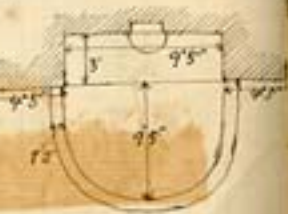




土面図

鉄口
大田島地千手
唐守相張文獻公之墓

平面図

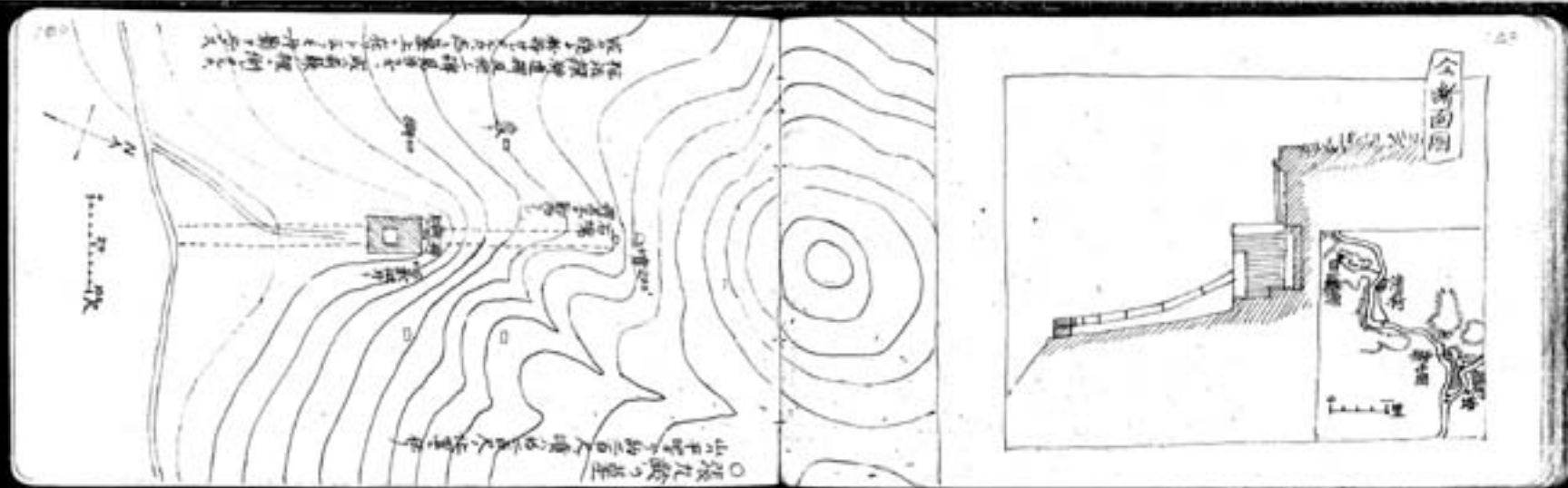


○ 覆丸の墓

羅漢渡津附近より北望

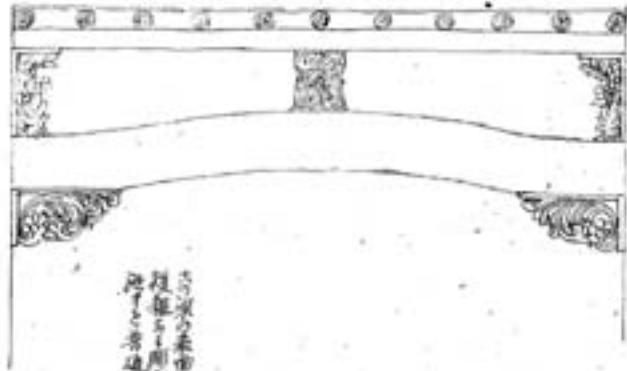


何事も獨り慮れて慮し
紅雲



173

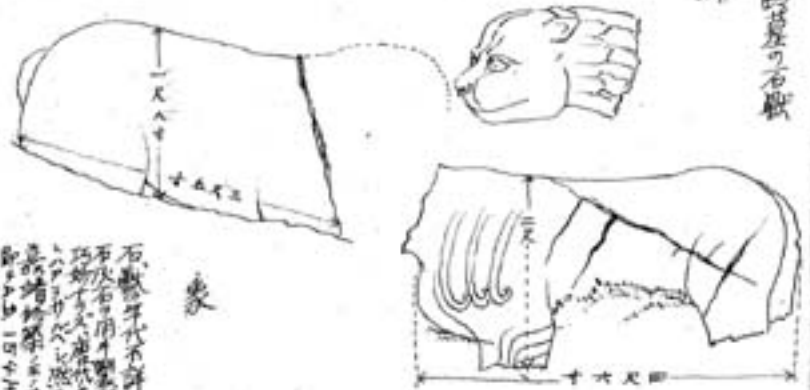
高州地方時祭の入口上の石版



高州地方時祭の入口上の石版
 高州地方時祭の入口上の石版
 高州地方時祭の入口上の石版

100

張たのり屋の石版
獅



象

石版年代不詳
 石版石の用牛頭作
 高州地方時祭の入口上の石版
 高州地方時祭の入口上の石版
 高州地方時祭の入口上の石版



羅源附近女子の風俗(苗子)

よそが時々加勢方よ思ひける、おれこハ奴何
 あり難ても遊さすハ置けあし

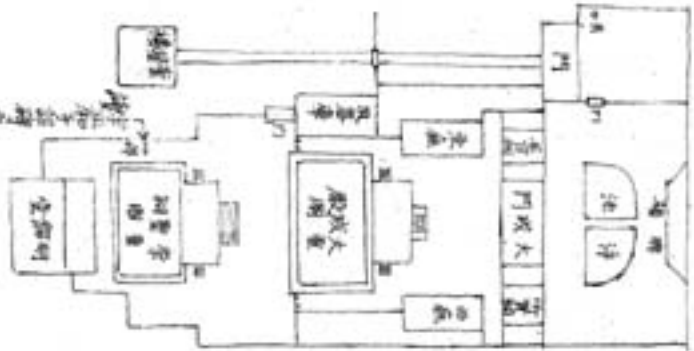
紅雪

夫婦で力限り持て実る張の、おれのと縁か一生忍
 命は細き引張も、飯の仕度せしと成る婆しと云



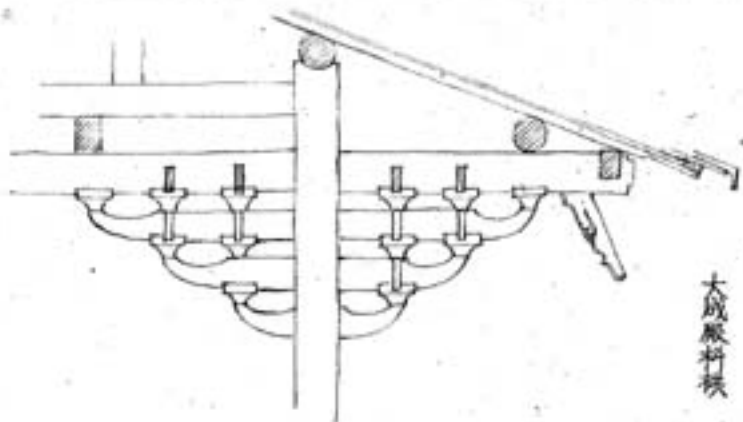
羅源附近(勇敵ふるい安島)

清村の高麗(文筆と款) (1)



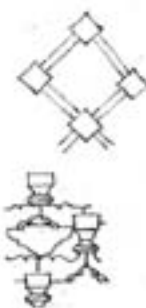
○ 龍州府崇宮
大政殿の孔子外四聖十二所也
与屋宇悉く木を以て造る

増字知不足研案考

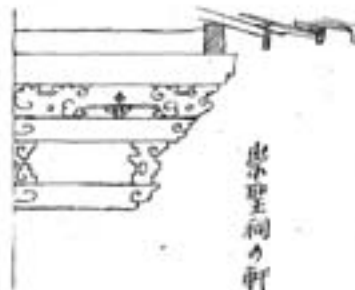


大成殿の軒

軒の終りは大空に懸る (Genie's (Shading) ことし屋根のこと)

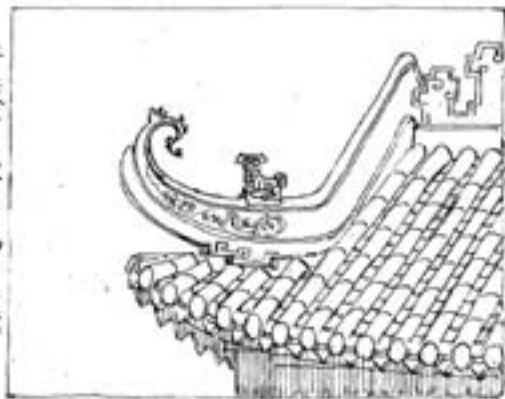


崇聖祠の軒
(海博寺山門と同じ意匠あり)



崇聖祠の軒

東西兩廡
下ノ棟をシメ母屋



青板をもち棟の木端の手所

額刃の遺跡

○金石の部

南漢大空二年鐘款 不詳夏在

乾道三年鐘款 在詔州府堂 (現在)

吳道子画張之教像本 在文和公祠内 (現在)

唐昭江公張氏九終 在文和公祠内 (現在)

鹿入深宮花綺窓 牛壺高嶺餘像休 (現在)

當時若懸履浦談 豈到峨嵋山盡頭 (現在)

張九齡神道碑 在法橋 (見當之)

全上 崖上ナリ (見當之)

陳自汝風樓記 (現在)

宋正和八年手記碑 (康成子可辨)

碑一層 其款大 康成子可辨 手記碑 在府堂

是記書下層 爲手記碑 在府堂

是記書下層 爲手記碑 在府堂



観音殿内から見た様子
 観音殿の柱は、
 観音殿の柱は、
 観音殿の柱は、
 観音殿の柱は、



観音殿柱の上の飾



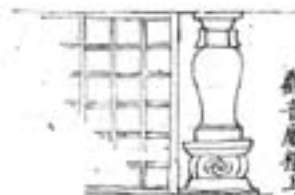
天王殿の弥勒の龕の飾

下六尺五寸

寸五分

寸五分

天王殿の弥勒の龕の飾は、
 立像あり、四天王の像あり、純正
 仏教あり、



○光蓮寺
 観音殿柱上の飾



柱上の飾

光輝寺の鐘、廣東スタイルあり



○延祥寺

① 前は弥勒の五像あり、後ハ
背殿天あるをみて四天王あり
② 二天あり、光輝寺式あり

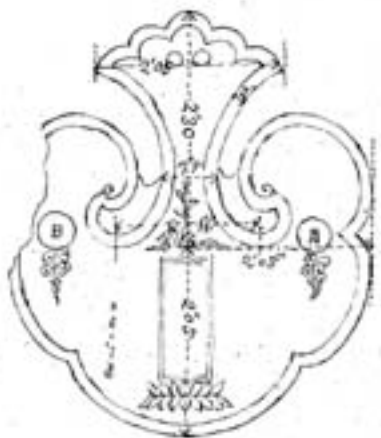


大雄宝殿柱



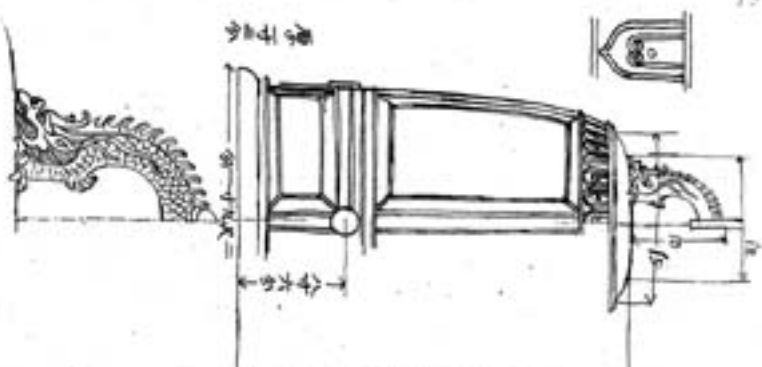
○韶州奇堂

乾道三年、磨

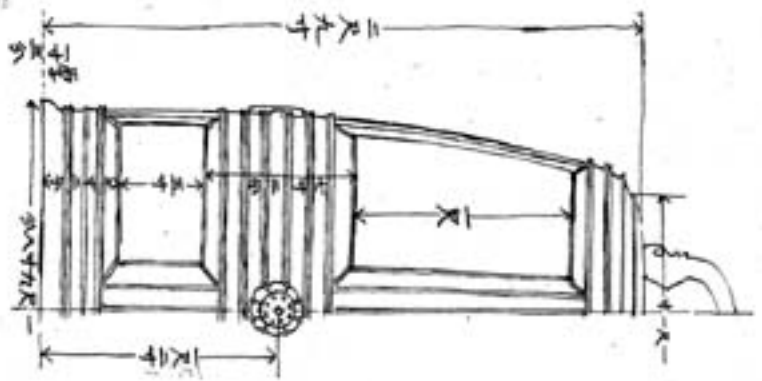


厚八分、幅縮一十二分

宋孝宗乾道三年丁亥
西曆1163
日本 六條天皇 仁安二年

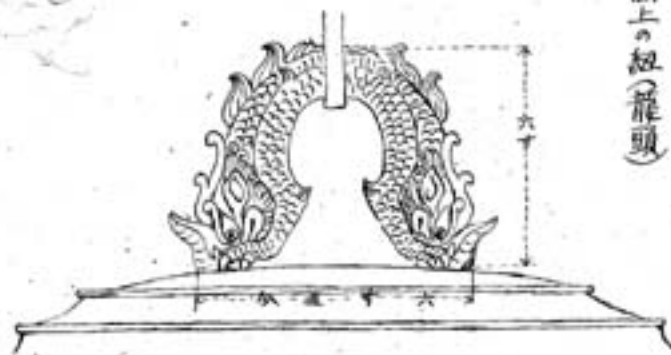


明花鐘
 明憲宗成化五年
 西曆一四七二年
 日本德島縣阿波室土前十年



文宗宮内南漢鐘
 南漢大空二年
 西曆二四〇二年
 日本村上元豐天保三年

同上之紐(龍頭)



○ 藤王廟



○ 天德廟

聖壽寺

在智史田名聖壽寺聖壽院

峽山廟

在西南二十里

聖英湖湖頭

湖西南十五里

南山石壁諸刻

刻佛一至許鳴鐘寺下

即有實空寺

虎溪三笑

在鄒西于中祖台堆

四傳展史合卷吳北唐兜卷卷難差前

有詩人詩刻人壇竹

金山寺

唐長壽中雷恩辰

東華寺

在小江平山中寺下

雪山院

在陝南五里

四教寺八根



○英徳縣
一種の gable



193
白茫白土間

堂々として出てきたる回廊武士

五重

○ 聖岳寺

奥の院と定光堂と云ふ
定光大師ハ姓鄭名自嚴泉州同安人也
宋人まて其地を東り八十才と云ふ其
陽修御守の時人せ
石室の内ニ像を安置す云々

高岡底潭

室ノ南の石壁ニ

廣東路新聞岐山棧路記

嘉祐六年歲次辛丑七月壬午朔二

次ノ
保聖三年四月の銘

利元二年歲次己酉の題銘

南山十詠及序

元和十一年十月十九日朔

景徳四年閏五月十二日

南山石壁



支那の寺廟の珍らしい山水、昔より知られぬ
文人墨客、へべりけはあつぬ者は無し

手北方

唐元四年十二月

* 泰應元年重九月朱子進書

熙寧甲寅二月十日

熙寧元年十月

大觀戊子

淳祐六年二月五日

李昂英

宝祐甲寅

紹聖元年九月十二日

蘇軾

淳祐五年

全 壬寅

程孝達

元符庚辰

咸淳庚午

昔年



○ 閔帝廟

成化七年の鐘あり

○ 學宮



ノ故程祠ニ
ノ堂更用トス

* 三山學園陳先生醉時歌大醉坐徹
臥小酌盡香湯一月二十九日醉
年三萬六千場 變為花無主春如
歲月可聞人自化 諸君相此飲
世間窮達天堯茫 嘉泰元年重九
日東子更書
於陳先生者復博也

水上生活民の少女



滿州人

廣東人



上海生活民の少年

伊藤元美
土居節
松平即印
德伏桂下
公義寺
墨書
大泚二市

○廣東建築の特質

- 木料多し全部木村くしく大成殿あり
- 楹椽彫刻多し
- 屋根、裝飾全ク特異ナリ
- モールゲイグノ資遣、殊ニ西洋趣味ニ多シ
- 今上ノ御遊藝味、モリカカラス
- 村狹往々、木柱ニテ肘押木ヲ重畳用ス
- 住家ノ間取り(設テ市中ノ住家)
- 入口ノ中庭、屏風の
- 切角ノ形状
- 版屋ノ庫
- 佛龕、殊ニ西洋建築
- 觀角山ノ上ニ雙鈴
- 入りノイノト及貝窓
- 往來ノ花袋、杖子
- 在、先及、聚、堂

○觀察セル史的遺物

- △唐
- 搬聖寺光保 貞觀
- 神島土の墓 全上
- 窠九峯の墓
- 玄妙觀の鐘 天徳三年
- 光孝寺経幢 宝曆三年
- 光孝寺普賢菩薩像 佛凡元年
- 廣徳門の鐘 乾元
- △五代
- 高州文昌宮の鐘 大寧三年
- 光孝寺の東西塔 大寧
- △宋
- 張九齡画像及贊 淳熙
- 韶州府學の碑 正和
- 韶州府堂の祭 乾道三年
- 玄妙觀前地の鐘 元豐三年
- 韶州光遠寺の碑
- 英德南山諸石刻

2	第一卷
3	第二卷
4	第三卷
5	第四卷
6	第五卷
7	第六卷
8	第七卷
9	第八卷
10	第九卷
11	第十卷
12	第十一卷
13	第十二卷
14	第十三卷
15	第十四卷

15	白雲山
16	地理、地質
17	考略、沿革、沿革
18	考略、沿革、沿革
19	考略、沿革、沿革
20	考略、沿革、沿革
21	考略、沿革、沿革
22	考略、沿革、沿革
23	考略、沿革、沿革
24	考略、沿革、沿革
25	考略、沿革、沿革
26	考略、沿革、沿革
27	考略、沿革、沿革
28	考略、沿革、沿革
29	考略、沿革、沿革
30	考略、沿革、沿革
31	考略、沿革、沿革

四月

12	24	孫渡	12	24	孫渡	12	24	孫渡
13	25	孫渡	13	25	孫渡	13	25	孫渡
14	26	孫渡	14	26	孫渡	14	26	孫渡
15	27	孫渡	15	27	孫渡	15	27	孫渡
16	28	孫渡	16	28	孫渡	16	28	孫渡
17	29	孫渡	17	29	孫渡	17	29	孫渡
18	30	孫渡	18	30	孫渡	18	30	孫渡
19	31	孫渡	19	31	孫渡	19	31	孫渡
20		孫渡	20		孫渡	20		孫渡
21		孫渡	21		孫渡	21		孫渡
22		孫渡	22		孫渡	22		孫渡
23		孫渡	23		孫渡	23		孫渡
24		孫渡	24		孫渡	24		孫渡
25		孫渡	25		孫渡	25		孫渡
26		孫渡	26		孫渡	26		孫渡
27		孫渡	27		孫渡	27		孫渡
28		孫渡	28		孫渡	28		孫渡
29		孫渡	29		孫渡	29		孫渡
30		孫渡	30		孫渡	30		孫渡
31		孫渡	31		孫渡	31		孫渡

二月	1	孫渡
	2	孫渡
	3	孫渡
	4	孫渡
	5	孫渡
	6	孫渡
	7	孫渡
	8	孫渡
	9	孫渡
清野	10	孫渡
	11	孫渡
	12	孫渡
	13	孫渡
	14	孫渡
	15	孫渡
	16	孫渡
	17	孫渡
	18	孫渡
	19	孫渡
	20	孫渡

経路四十二年

正月

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 11 | 午前九時鈴掛大風雪 |
| 12 | 午前十時子孫殿 修徳寺此處地蔵堂、山門修徳寺 1000 坪 |
| 13 | 午前二時子孫殿 園是 1000 坪、十一時長弁石 |
| 17 | 午前二時子孫殿、五時出見、丹波園地蔵、八中寺 1000 坪、 |
| 18 | 紅筆、 |
| 19 | 午前九時 新津吉田川上、午前九時此處此處、此處此處此處、此處此處 |
| 19 | 午前八時、大津川、此處、此處、此處、此處、此處、此處、此處、此處、 |
| 20 | 午前九時、此處、此處、此處、此處、此處、此處、此處、此處、 |
| 21 | 三時、此處、此處、此處、 |
| 22 | 修徳寺、此處、 |
| 23 | 支那寺、此處、(此處、) |
| 24 | 六時、此處、 |
| 25 | 支那寺、此處、 |
| 26 | 修徳寺、此處、五層樓 |
| 27 | 伊勢、此處、 |
| 28 | 修徳寺 |
| 29 | 五層樓、此處、此處、此處、此處、 |
| 30 | 海濱寺 |
| 31 | 修徳寺 |

正覺、大覺、

貴白王殿、

山野、此處、

身三石、此處、

18

會

文昌廟
府衙門
光運寺
延祥寺



府學堂

光緒二十五年何四多也

同製田

875 / 11228
1250
1250
1250
3750
9500
7750

文烈公是行人

124
48
60

原

大雄宮殿後也有大殿

所

清国廣東上 第十八卷



Handwritten notes or calculations, possibly related to the drawing above. The text is faint and difficult to read, but appears to be organized in a list or table format.

回名原表

(天津)

清真指南

馬注 字中修

一六四六

道光朝 五保三
清太祖 順治三

至聖實錄年譜

劉智

天方性理

..

天方典禮

..

五切釋義

..

天方字母斛義

..

一七一〇

中緬川 宣統七
清太祖 康熙四九

天方正學

盧子美

清真教考

Soun Ki-ngam

一七一〇

中緬川 宣統五
廣德五九

朝覲途記

出
(天卯)

馬復初 (著) 馬安禮 (譯)

一八六二

光緒 宣統二
同治二

廣東蕃人家
於阿拉伯古書
錄其英訳

Phrase No. ①

KOUBBETOU VELIYUL LAH (Pronunciation);

(The dome of the friend of God) ----- Meaning.

Phrase No. ②

REOUDETOU ABI VEKASS (Pronunciation);

(The garden of Abi Vekass) ----- Meaning.

(Abi Vekass was a famous military commander, contemporaneous of the Prophet Mahomet).

Phrase No. ③

This phrase can not be read, as it is neither Turkish nor Arabic; it is Sumatran language.

Phrase No. ④

YA MOUFETTIIH UL EBVAB, IPTAH LENA EBVAB ----- (the last word of this phrase cannot be read too.)

(Thou, who openeth the gates, do open to us the gates of -----

Phrase No. ⑤

LA ILAHA ILL' ALLAHA, MOHAMMEDON RESSOUL OUL LAHI (Pronunciation)

(there is no God except the God, and Mahomet is His apostle).

is the meaning of the last phrase.

Copyright 日本建築学会

Ancient account of India and
China, by two Mohammedan
travellers, who went to those
parts in the 9th century.

Tr. from the Arabic. Lond.

1755. 12°. 93-276

Adresse Télégraphique

NAKAMURA - CONSTANTINOPLE

K. NAKAMURA & C^e

GRANDE RUE DE PERA. 188

CONSTANTINOPLE

四月十三日 五月初六日

於東京

伊东先生

虎皮下

志士松平健

一

此書を讀みし心外の事あり。吾等如何に之を流通せしむ
 之を得んことを願ふ。此書は、後書、古く紀元前
 の位最に於て、一、五、百、年、前、の事なり。其の
 山、名、は、雄、略、略、也。今、以、て、此、般、紅、毛、浴、衣、日、半、浴、衣
 は、故、居、宿、事、ト、云、唯、ハ、福、ト、也、余、欲、テ、聲、名、也、前、書
 兼、せ、し、由、り、此、書、出、之、前、ハ、中、身、浴、衣、御、力、也、又、テ、中、遠、ハ、
 覺、然、ト、也、池、ト、聲、讀、マ、ル、由、り、ト、述、レ、テ、ト、海、底、ハ、
 有、リ、大、海、久、痛、ノ、左、右、ト、述、レ、テ、中、下、ト、云、テ、ト、
 瀆、め、た、ト、云、也。

于、七、四、十、下、布、の、澤、澤、又、漸、々、也、取、伊、豆、和、白、也、送
 中、々、二、百、日、查、及、後、讀、也、ト、云、一、ハ、五、の、外、ハ、密、易、ト、判
 明、也、段、又、遠、の、人、ハ、其、般、名、ト、聲、名、漸、々、別、紙、交、テ、
 一、

2. 1824.

Edward Mähler,
Chronologische Vergleichungs-
Tabellen.

1824年計 = 4月7日

1. Moharrem
2. Saper
3. Rebi el-cemwel
4. Rebi el-achir
5. Elschumadi el-cemwel
6. Elschumadi el-achir
7. Redscheb.
8. Schaban
9. Ramadan
10. Schewwal.
11. Hien' l-hade. 皇朝の1772
12. Hien' l-hedsche. 皇朝の1772

| Bulkaada
 | Bulheggia

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Ancient account of India and
China, by two Mohammedan
travellers, who went to those
parts in the 9th century.

Tr. from the Arabic. Lond.
1753. 12°. 92-276